

ショッパー Shopper

お出掛けガイド

冬の鳥取
ゲゲゲの町と
海辺の温泉郷へ



松葉がにも解禁!

11月6日に、鳥取の冬の味覚「松葉がに」が解禁となりました。シーズン中は県内各地で味わえますが、向かうなら足を延ばして県西部へ。「ゲゲゲの鬼太郎」の作者・水木しげるさんの故郷の境港市で「妖怪散策」に興じ、お隣の米子市で県内屈指の温泉郷「皆生温泉」のいで湯に浸かる。そんな冬の休日の提案です。

企画・制作／中日新聞広告局

リニューアルして人気再燃 水木しげるロード

JR境港駅前から真つすぐ伸びる目抜き通り。その両側約800mにわたって、177体もの妖怪のブロンズ像が鎮座しています。ここ「水木しげるロード」は、文字通り妖怪一色。通り沿いには、一反木綿をモチーフにした鳥居が目印の「妖怪神社」、限定の妖怪消印が押されて郵便が届く「妖怪ポスト」…。そこかしこで妖怪の気配がしますが、行き交う人は皆笑顔です。食へ歩きを楽しむ人も少なくありません。妖怪にちなんだグルメは期待通り多種多彩。ここでは「散策のお供」に悩むことさえ、醍醐味(だいごみ)なのです。

リニューアルして人気再燃 水木しげるロード

あつて話題です。駅前にオープンした人気のホテル「御宿 野乃」(電話0859・44・5489)での宿泊ならば、時間を気にすることなく「夜の妖怪散策」が満喫できます。

境港市通商観光課の足立明彦さんが、「マイカーで来た家族は、ママと子どもだけが米子駅からリニューアルされた『鬼太郎列車』に乗り、パパと境港駅で再会流すケースが増えていますよ」と教えてくれました。鬼太郎列車とは、JR米子駅と境港駅を結ぶ路線で、車両にねこ娘や目玉おやじなどおなじみのキャラクターをペイント。米子駅の0(霊)番ホーム発着という徹底ぶりも見逃せません。

今年7月に大幅にリニューアルした水木しげるロード。中でも、照明により妖怪の影が不規則に投影される夜の同ロードは、鬼太郎の世界観に一層浸れると

ゴール地点は、展示の一部をリニューアルした「水木しげる記念館」。水木さんの愛用品や10代の習作などが展示され、訪れる人が絶えない施設です。



1・2)水木しげるロードの昼と夜の様子。3)眼前に日本海が広がる皆生温泉。4・5)「いこい亭 菊萬」の露天風呂と松葉がに料理。6)鬼太郎列車。「大人も懐かしく楽しめます」とは、JR西日本米子支社の長島悠治郎さん

電車…JR名古屋→(新幹線)→JR岡山→(特急やくも)→JR米子→JR境港/約4時間45分
車…名古屋から(名神・新名神高速→中国道)→落合JCT→(米子自動車道)→米子IC下車、境港市へ/約420km

かつてみませんか。お待ちかねの夕食は、もちろん解禁されたばかりの松葉がにを。老舗旅館「いこい亭 菊萬」(電話0859・38・3300)も松葉がに尽くしの料理でもてなしてくれるそう、代表の柴野清さんいわく「焼きがに、かにすき、かに刺し、雑炊、味噌汁。どんな食し方でもおいしいのが、松葉がに」とのこと。おなかいっぱいになったところで再び温泉へ。水平線のイカ釣り漁船のいさり火、満点の星空が一日の終わりを告げるころに浸かる湯船は、いつだって旅の疲れを癒やしてくれます。

耳寄り情報

①鳥取県内に宿泊すると旬のカニが抽選で当たる!!

鳥取県では2019年2月28日(木)まで、抽選で毎月100人・総勢600人に同県産の「旬のカニ」が当たる「蟹取県ウェルカニキャンペーン」を実施中です。県内の対象施設に宿泊した人が対象で、応募は下記WEBまたは

専用はがきで受付中。詳しくは、<https://www.kanitoriken.jp/index.html>で確認を。

②名古屋にある情報発信拠点が12月10日に移転オープン!

名古屋から鳥取県の情報発信している「ふるさと鳥取県産業・観光センター」が、12月10日(月)に移転リニューアルオープンします。移転先は、久屋中ビル(中区栄4・16・36)の5階(電話番号は変更なし)。同県全域の観光情報が変わらず一堂にそろそろ他、移住・定住に関する情報も充実しているので、ぜひ気軽に足を運んでみて。気さくなスタッフが、親身になって相談に乗ってくれます。

問い合わせ

ふるさと鳥取県産業・観光センター
(中区栄4・16・36 久屋中ビル5階 ※12月10日から)
電話052・262・5411
<https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>